

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：山 県 市 立 伊 自 良 南 小 学 校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

月	取組項目	具体的な内容
4	取組の全体構想作成 模擬授業による校内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握した。 ・英語活動における「目指す姿」を設定した。 ・年間指導計画を作成した。(H18年度版の改善) ・1時間の流れについて確認した。
5	言語活動の工夫改善 先進校視察(瑞穂市立生津小学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を生かした活動を工夫した。 ・「話す、聞く」にかかわる学び方指導を確認した。 ・先進校の取組から活用できることを交流した。
6	楽しく学び、コミュニケーション能力を 高める展開及び指導援助	<ul style="list-style-type: none"> ・Play Time(言語活動)の進め方や児童の意欲を高める活動内容の在り方を、授業研を通して工夫・検討した。
7	年間指導計画の工夫改善 ALTスーパーバイザー研修	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なTTの在り方について交流した。 ・4月に作成した年間指導計画を見直し、改善した。
8	1学期の取組の振り返り 学習環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の成果と課題をまとめた。 ・よりよい英語活動のための学習環境作りをした。(英語活動スペース、教室表示板)
9	「目指す姿」具現のための指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握を生かし、児童の興味・関心を高める活動の在り方を検討した。 ・児童同士が関わり合うことができる活動の在り方を検討した。
10	楽しく学び、コミュニケーション能力を 高める活動展開及び指導援助	<ul style="list-style-type: none"> ・TTにおける教師(HRT、ALT)の役割分担について、授業研を通して再検討した。
11	公開授業案作成及び検討 ALTスーパーバイザー研修(2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・伊自良南小学校拠点区実践交流会に向け、指導案、取組内容発表について検討した。
12	先進校視察(京都市小学校英語研究会) 2学期の取組の振り返り、来年度年間指導計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーバイザーによる研修により、ALT Time から Play Time へのスムーズなつなぎ方を研修した。 ・先進校の取組から活用できることを交流した。 ・2学期の取組についてまとめ、来年度年間指導計画について検討した。
1	英語活動に生きる教科指導の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・英語活動に関連した教科や領域等での指導の在り方を検討した。 ・伊自良南小学校拠点区実践交流会に向け、指導案、取組内容発表について検討した。
2	楽しく学び、コミュニケーション能力を 高める活動展開及び指導援助の在り方 伊自良南小学校拠点区実践交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・Play Time(言語活動)の進め方について工夫した。 ・模擬授業を通して、児童の意欲を高める活動内容の在り方を検討した。 ・効果的なTTの在り方について交流した。 ・実践交流会において、授業(5年生)を公開し、取組内容を発表した。
3	来年度の取組に向けた計画作り	<ul style="list-style-type: none"> ・19年度の取組の成果と課題をまとめた。 ・次年度の英語活動年間指導計画の改善点を明らかにした。 ・児童に、英語活動を振り返るアンケートをとった。

2 本校における取組の具体的な内容

教員の指導力の向上のための取組について

(1) 定期的な校内研修の位置付け

年度当初に模擬授業（英語活動担当者が教師役、その他の教師が児童役）を行い、昨年度までの実践を基に本校が進める英語活動に対する考え（指導姿勢）を共通認識した。

【英語活動の基本的な考え】

- 児童が授業を進行する。
- 一題材が数時間の題材活動計画を立てる。
- 「聞く」ことを大切にする。
- ALT のネイティブな発音がたくさん聞けるようにする。
- ALT の発音のあとに自然に繰り返すことができる雰囲気をつくる。
- 児童に書くことを要求しない。
- 英語の読み方をカタカナで書かない。（英語で書くのはよい）
- 英語を覚えさせようとするのではなく、会話を楽しむようにする。
- 英語で話したり、聞いたりすることが必要な活動を仕組む。
- どれだけ覚えたか、書けるようになったかではなく、ゲームや遊びを通して会話を楽しむことができるようにする。
- 基本的な会話パターンを使って受け応えができるようにする。
- HRT は英語ではめめる言葉をどんどん使えるようにする。だんだん児童も使えるようにする。
- HRT も児童も分からないときには、その場で進んで尋ねるようにする。
- 英語を話せる環境をつくっていく。（英語活動でワークスペース使用時は英語を使う、日常生活の中での英語使用率の向上）

英語活動の先進校（5月：瑞穂市立生津小学校、12月：京都市小学校英語研究会）を視察し、指導案や取組の資料を使って、活用できることを交流した。

英語活動の授業を公開し、校内研究会において指導方法等について討議した。

本年度は、伊自良南小学校拠点区実践交流会以外に英語活動の全校公開授業を4回位置づけ、それぞれに視点を明確にした校内研究会を実施した。

効果的な指導方法の工夫改善について

(1) 児童の発達段階やスキットの難易度に柔軟に対応した指導計画の見直し

これまで、1か月4回という枠があったが、それを止めて題材中のスキットが難しい場合は、必要に応じて指導計画を長くしたり、ハロウィンなどのように季節感のあるものは、短期間で取り組んだりすることができるようになった。また、児童の発達段階やスキットの難易度については、ALT と相談しながら指導計画を改善することができた。

(2) 1時間の英語活動の流れを確立とTTにおける役割分担を明確化

【伊自良南小学校における1時間の英語活動の基本的な流れ】

Hello Time <あいさつの場>

- ・ ジェスチャーなどを交え、その時の気分や体調にあったあいさつをする。
- ・ リーダーやALT、HRT との英語でのあいさつを通して、英語活動を始める意欲をもつ。

Song Time <楽しい雰囲気作りの場>

- ・ 歌いながら身体表現をすることで、表現や語句を自然に身に付ける。
- ・ 体を動かしながら楽しく歌える歌を選曲する。
- ・ 英語の音やリズムに浸らせることで、本時扱う言語の導入をする。
- ・ 自分から進んで相手を見つけてかかわる場を設け、明るく和やかな雰囲気作りをすることで、学習意欲が高まるようにする。

ALT Time <ALT 中心の場>

- ・ 生きた英語に触れる機会を多くとることで、ネイティブの発音をできるだけ多く聞く。
- ・ ALT と児童とのコミュニケーションが図れるようにする。
- ・ 外国の生活や文化などについての視野を広める機会とする。

Play Time < 本時の中心活動の場 >

- ・ ALT と HRT とのスキットの中で、具体物やジェスチャーを交えながら、やり方やルールを示していく。
- ・ 一人一人が必ず英語で話す必要性がある活動を設定する。
- ・ 思わず英語で話したくなるような楽しい活動を設定する。

Comments Time < 個のよさを認め、広める場 >

- ・ 自己評価・仲間による評価・ALT や HRT による評価などを、場面や発達段階に応じて分ける。

【ALT と HRT の役割分担】

HRT の活動における役割と評価

- ・ 授業の進行をしながら全体の様子を把握する。
- ・ 学習者のモデルになる。
- ・ 今日の課題を明確にする。
- ・ 個に応じた援助をする。
- ・ 時には ALT の英語をリピートし、強調する。
- ・ ALT と児童との橋渡しをし、スムーズに活動が進むようにする。
- ・ 評価の場では、積極的に英語を使って仲間とかわる姿や、援助を必要とする子が進歩した姿を見つけ、価値づけ、広め、活動意欲を高めていく。

ALT の活動における役割と評価

- ・ 英語でどんどん話しかけていき、Native English (英語独特のリズムや発音) をより多く聞かせる。
- ・ その場に応じた言語や本時の言語材料を積極的に話す。
- ・ ALT Time では、主に言語の紹介、題材に関わる言語の幅を広げるようなクイズやゲームを行う。また、日本と外国との文化や習慣の違い等についても触れる機会にする。また、発音の違いにも触れるようにする。
- ・ 評価の場面では、発音や表現にかかわって、よい姿を見つけていく。

(3) 英語活動のための学習環境整備

本校は、全校7学級と小規模校であるため、英語活動はすべて3階ワークスペースで行っている。そのワークスペースを中心にした掲示物作りや教材教具の整備を8月に行った。主に行った作業は以下の通りである。

- ・ 英語活動への意欲向上のためのポスターの掲示
- ・ Play Time カテゴリー別の掲示物の作成、掲示 (野菜、乗り物、教室の文房具、給食のメニュー、ハロウィンのカボチャ、クリスマス、国旗)
- ・ 階段掲示物の作成 (曜日、月)
- ・ 破損した掲示物、カードの修理、作成
- ・ 作成したカード等をラミネートコートする。



本校3階にあるワークスペース。英語活動のホームグラウンドです。前面、側面、背面のすべてに英語活動のために必要な物が掲示されています。「ここでは英語！」の雰囲気を作り出しています。

ALTや地域人材等の効果的な活用について

- (1) ALTとの打合せ時間を確保し、打ち合わせた内容を紙（それぞれの役割を細分化し、本時話す内容や評価する項目、授業を進めていく上でのポイント等が書き込むことができる打ち合わせ用紙）で残し、毎時間の授業に臨んだ。
- (2) ALTの派遣会社からスーパーバイザーを招いて、英語活動の進め方に関する研修会を開催した。
英語活動の授業を参観し、よりよいTTにするためのポイントをALTのスーパーバイザーの立場から話をしてもらった。また、HRTのClassroom Englishへのアドバイスを受けた。

児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

- (1) 定期的に「英語活動アンケート調査」を行い、児童の学習意識をつかみ、今後の指導に役立てていこうとした。
- (2) 『英語活動で目指す姿』を低学年、中学年、高学年、たんぼぼ学級（特別支援学級）ごとに、一覧表にまとめ、評価の土台となるようにした。

【英語活動で目指す姿】

学年	願う子どもの姿	自己を表現する意欲・態度	進んで人と関わろうとする意欲・態度	理解する力
高学年	簡単な英語で活動しながら、気持ちや考えを誰とも伝え合うことを楽しむ。	分かりにくいときは、積極的に聞き返そうとする。 自分が伝えたいことを覚えた英語を使って伝えようとする。 場に応じた英語を覚え、活動で使おうとする。	相手が伝えようとする内容を共感的にとらえようとする。(Friendly) 誰とでも進んで活動しようとする。(Friendly)	英語を聞いて、場面に応じた行動をとることができる。 相手の考えや尋ねたいことを理解し、簡単な英語で返事をするすることができる。 英語の音声の特徴をつかむことができる。
		英語の音声の特徴に親しみ、まねて言うことができる。 自分が伝えたいことを、簡単な英語を使って言うことができる。 場面にあった英語を使って活動することができる。	相手の反応を確かめながら、活動を楽しむことができる。(Eye contact) 分からないことがあったら、助け合いながら活動を進めることができる。(Friendly)	

本年度は、活動中の指導援助に重点を置いて取り組んだため、活動後の児童の自己評価を指導に生かすための手立ては十分とは言えなかった。今後は、さらに適切な評価方法を選択し、児童の自己評価、相互評価を意図的、累積的に位置付け、よりよい活動に向けた意欲化を図ったり、児童の実態把握のために役立てたりしていくことが課題である

その他（ICTの効果的な活用等）

- (1) 活動を支える教材づくりの中で、英語に関わるイラスト等の活用で役立つものを活用した。
「ジュリー先生の英会話教室」<http://kues.educ.kumamoto-u.ac.jp/~fuzoku/EIKAIWA/index.htm>
「+英語+英会話無料素材教材100点」<http://eigosozai.main.jp/>
- (2) クラスルームイングリッシュのための資料、ALTとの打ち合わせに活用した。
「excite翻訳」<http://www.excite.co.jp/world/>

3 本校における取組の成果等

- ・月ごとの題材活動計画に、ユニットの考え方を取り入れて題材配列を見直したことで、児童の実態や難易度を考慮して指導計画に生かすことができた。
- ・Play Timeの活動を児童の実態に合わせて興味がもてる題材にしたことが、児童が生き生きと自己を表現することにつながった。
- ・英語活動の流れを明らかにしたことで、児童、教師、ALTが安心して取り組み、見通しをもった活動を

展開することができた。

- ・活動を高めるために、HRT・ALTが表情豊かにデモンストレーションして、本時の目指す姿や活動内容を示すことで、児童が楽しく活動し意欲的に表現する姿につながった。
- ・活動内容を工夫し、仲間と関わりながら課題を達成するように設定することで、児童が意欲的にスキットを活用し、気持ちや考えを仲間に伝え合う楽しさを味わいながら、豊かに表現する姿につながった。



「仲間とかかわりながら課題を達成するよう活動を設定することで、仲間に伝え合う楽しさが生まれる。」
(平成20年2月15日 伊自良南小学校拠点区実践交流会でのPlay Timeの様子)

- ・英語活動以外に、以下のような場で英語を話したり、聞いたりする機会が増えてきたこと。
給食時の全校放送で、Today's menu is ~ and ~.と紹介している。
朝の会などの時間を使い、誕生日を迎えた児童の紹介とHappy Birthdayを歌ったり、天気を尋ね、答えたりする時間をとっている。
- ・英語活動を成立させる基盤として、次の3点が重要であることが確認できた。
日頃の学級経営と児童理解
学級担任が主体となった授業づくり
児童が自分から進んで英語を話したくなるような環境づくり

- ・児童の英語活動への興味関心が高まった。

5, 6年生49人に実施した「英語活動のアンケート調査」(平成20年2月実施)から、以下のことが分かった。

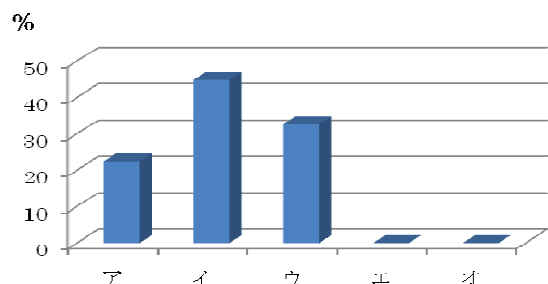
年度当初の4月に比べて「とても好きになった」「少し好きになった」児童数は、33人(67.3%)であり、多くの児童が英語活動に対して興味関心をもっている。

英語活動では、Play Timeに行われるゲームなどの活動を楽しんでいる児童が多く、7割を超えている。ただし、今後、「コミュニケーションを通して相手のことがよく分かった。」と感ずることができる児童を育成することが課題であることが浮き彫りにされた。

1年間の英語活動で成長したと感じている児童はかなり多く、特に英語が分かるようになった、英語を話すことができる、聞きとることができると感じている児童は約7割である。

質問1「4月にくらべて、英語が好きになりましたか。」

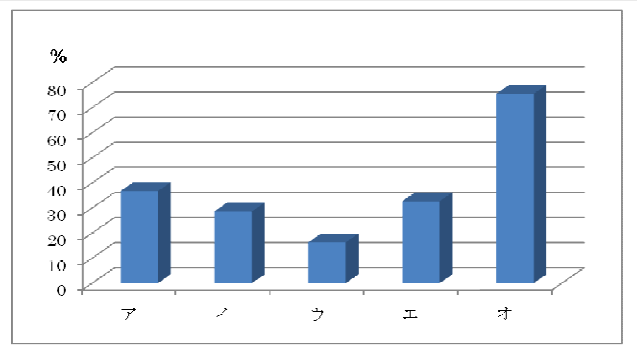
- ア とても好きになった。 11人(22.4%)
- イ 前より少し好きになった。 22人(44.9%)
- ウ 前と変わらない。 16人(32.7%)
- エ 前より少し苦手になった。 0人(0%)
- オ 苦手になった。 0人(0%)



質問2 「楽しかった活動の理由は何ですか。」

(複数回答可)

- ア 英語が相手に通じたから 18人(36.7%)
- イ 友達と英語を使って話すことが楽しいから 14人(28.6%)
- ウ 友達のことが分かるから 8人(16.3%)
- エ だれとでも仲よく話せるから 16人(32.7%)
- オ ゲームや活動内容が楽しいから 37人(75.5%)



質問3 「英語活動を通して、自分が成長したなあと思うことは何ですか。」(複数回答可)

- ア 英語が前より分かる(話せる・聞き取れる)ようになった。34人(69.4%)
- イ 自分から進んで話しかけることができるようになった。21人(42.9%)
- ウ 前より大きな声(はっきりした声)で話せるようになった。24人(49.0%)
- エ ジェスチャーを入れ、相手を見ながら話せるようになった。8人(16.3%)
- オ 活動に集中できるようになった。28人(57.1%)
- カ めあてを考えながら、活動できるようになった。12人(24.5%)

